
『西瓜』

おふ。

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

『西瓜』

【Nコード】

N8532M

【作者名】

おふ。

【あらすじ】

噎せ返るような夏のお話。

どうしてあんなに気持ちが悪いのだろう。

赤い、一面の赤、に、整列する、虫、のような、黒。まるで貴方の断面図みたい。そう言ったら、貴方は笑った。わらった。

今年の夏は暑いから、裏の湧き水の、あの冷たさは貴重だった。

貴方が持ってきた西瓜はあまりにも大きくて、冷蔵庫の扉が閉まらない。だから湧き水の桶に入れておくしかなくて、だけど大きいから、他に何にも冷やせなくなってしまった。西瓜は大嫌いだって私はちゃんとそう言っておいたのに、貴方はたぶん覚えていない。

「アレ、おばちゃんおらんと」

「おらんよ。集会あるち言つたやん」

「それやったらやあ」

貴方が顔を近付ける。汗ばんだ肌が触れ合う、ねちゃ、という感触がとても不快で、ぞくぞくするから、私は目をつむる。息苦しくて開いた唇に、やっぱりねちゃ、という感触がして、生温かい舌が這入ってくる。湿って張り付いたシャツを引き剥がすように脱がされる。うつ伏せに押し倒される。私は畳の縫い目をずっと見ていた。あちこちべとべとになった私をティッシュで乱暴に拭いて、最後に自分自身をしまうと、貴方は西瓜を食べようと言った。

「皿やら用意しようけん、持ってきて」

貴方が放り出した、いろんな液体に塗れたティッシュを手早くまとめながら、私は言う。貴方は珍しく素直に従った。汗染みの残った畳を眺めて、貴方の姿が消えてから、私は溜息を吐く。あからさまなその痕跡を、どうやって誤魔化そうか。のろのろとシャツを着る。ねちゃ、という感触。貴方の感触。私は溜息を吐く。

「持ってきたばい」

台所までの道のりが億劫でぐずぐずしているうちに、息を切らし

て、両手いっぱい西瓜を抱えて、貴方が戻ってくる。その満面の笑みに、急に何もかもが面倒になる。私は畳の汗染みの辺りを指差して、西瓜を置くように言った。貴方の笑みが深くなる。

適当な棒がなくて、おもちゃのバットで代用した。手拭いも見当たらず、仕方なく貴方の手で目隠しをもらう。弾んだ声で右とか左とか言う度に指の隙間が開いて、目隠しの意味がなかった。プラスチックのバットは脆過ぎてすぐにひしゃげる。私はそれを何度も何度も振り下ろした。鈍い手応えがあつて、貴方が歓声を上げる。飛び散った汁で、畳の染みが覆い隠される。私は満足して、それから、西瓜を見て気持ち悪くなる。一面の赤。虫のような黒。

「まるで貴方の断面図みたい」

そう言ったら、貴方は、笑った。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8532m/>

『西瓜』

2010年10月28日00時53分発行